

発行人＝阿部 聡 平成26年10月25日号

発行所／(有)アミックス  
〒957-0021 新発田市五十公野 4837-6  
tel.090-2733-3568 fax.0254-23-6946

Sibata Orange Press



「しばた」  
を知って楽しみ、  
「新しいしばた」  
の町をつくる新聞

菊水

そろそろ、  
大人の旨さが  
わかってきた。



菊水酒造株式会社  
〒957-0011 新潟県新発田市島崎750  
www.kikusui-sake.com  
お問い合わせお客様相談室  
0120-23-0101 FAX 0120-23-5254  
受付時間/平日10:00~17:00 (土・日・祝日を除く)  
お酒は20歳になってから。

## 切れ目ない母子支援 かかりつけ保健師制度

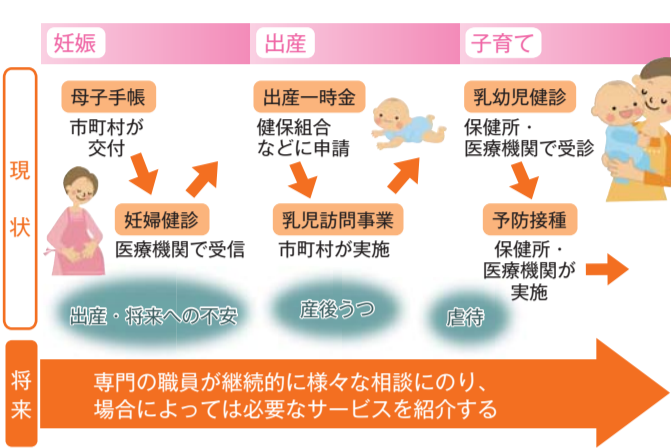
10月11日(土)、二階堂新発田市長は妊娠時(または妊娠の兆候があった時)から就学まで切れ目ない母子支援をするため、新たに「かかりつけ保健師制度(仮称)の導入に取り組む考えを明らかにした。

新発田市はこれまで、少子化対策ななくずく子育て支援に力を入れてきており、中学生までの医療費無料化・第3子以降の保育料無料化・子育て応援カード・保育施設の充実や一時預かりによる待機児童の解消などに取り組んできた。その一歩先の先進的な施策である。

この制度は1000年近く前フィンランドで始まったもので、ネウボラのフィンランド語で「アドバイスする場所」と呼ばれている。母親手当・育児パッケージ支給で妊婦さんの実態を効率的に把握

フィンランドのネウボラは自治体が設置し、妊娠の兆候があった時から就学前まで

「切れ目ない」母子支援のイメージ



継続して母子支援を行う。健診・保健指導・予防接種等はもちろんで、子育てに関する相談や必要に応じて他の専門機関と連携して、ワンストップで支援する。しかも同じ人(フィンランドでは「ネウボラおばさん」と呼ぶ)が継続して行うのが特徴だ。

「かかりつけ」であることで、信頼関係が築きやすくなり、問題の早期発見、予防につながりやすくなり、結果的に安心して子育てが実現できているといわれる。

妊婦健診は無料で、妊娠期間中は6〜11回、出産後も定期的にケアしている。1回の面談は30分〜1時間と丁寧で、子育ての問題だけでなく、母親・父親・きょうだい、家庭全体の問題も相談されている。

また、フィンランドでは出産時に、社会保険庁から第1子には140ユーロ(2万円弱)またはベビー服や育児用品の揃った「育児パッケージ」が支給される(1998年法制化)。この支援を受けるためにはネウボラまたは医療機関で妊婦健診を受けなければならない。これで行政は妊婦の状況を把握できる。また、このシステムは妊婦健診への動機付けとして有効に働いており、母子のリスクの早期発見・早期予防に貢献しており、結果として妊産婦と乳幼児の死亡率は大きく改善された。

ちなみに、フィンランドの人口は543万人、年間出生数は約6万人、出生率は約1.8、乳児死亡率は2/千人であり、日本は人口は1億2500万人、年間出生数は約105万人、出生率は約1.4、乳児死亡率は2/千人である。

一人の係が継続して相談を受けるから信頼が生まれ、お母さんは安心できる

新発田市ではネウボラをモデルに、可能

であれば一人の相談員が継続して相談を受け付けるようにしたいというのだ。マタニティブルー・産後ケア・健康・発育・子育てなど、母親の悩みや抱える問題は日々変化している。その悩みや問題に現在市は部署ごとに対応している。しかし、窓口や相談員が変わることで決して使い勝手がよいとは言えなかった。その結果、育児の忙しさの中で、だんだん相談に行かなくなり、子育ての大変さだけが心に残ることになりがちだという。

2010年で人口は10万1千202人、世帯数は3万3千402、そのうち核家族世帯は1万7千475、実に52%、半数以上が核家族なのである。この実情を受けて「切れ目なく子育てを支援して、第2子・第3子の出産につなげてもらいたい」というのだ。確かに日本の希望出生率1.8(既婚者の望む子ども数+未婚者で結婚を希望する人が望む子どもの数の合計×離別等効果)を実現するには、2人目、3人目を生んでもらわなければならないという理屈だ。これを女性に押し付けることは決してあってはならないが、「希望する人が産めないと判断する障害を少しでも取り除く支援(増田寛也氏)が必要だ」という。

人口減に悩む浦安市では独自の「子育てケアマネージャー」を育成

では、実際の制度はどのように設計されるのだろうか。

基本は「妊娠から就学までの切れ目のない母子支援サービス」だ。まず、どの部署の誰がやるのか。市長は「保健師を中心に」と話していたが、新発田市の保健師の数は現在35人。健康推進課・高齢福祉課・子ども課・人事課などに分散配置されている。

就学前の子どもの世帯数は当紙では把握していないが、単純計算で年間出生数約800人として試算すると、妊娠前からゼロ歳までに1歳から6歳までとすると8年間で6千400人、1世帯平均2人として

3千200世帯となる。この世帯数を35人で見るのは困難であろう。

また、各課に分かれ、それぞれ現在の仕事を抱えているのであるから、仮に子ども課だけに集約することもできないだろう。

ネウボラを参考に「妊娠から就学までの切れ目のない母子支援サービス」体制を構築しつつある千葉県浦安市の場合が参考になるかもしれない。

浦安市は江戸川を挟んで東京都江戸川区の隣、わずか17km<sup>2</sup>の中に人口約16万人、年間出生数は約1千600人、出生率は約1.1、さらに新発田市の約10倍、年間約2千人が転出、新発田以上に人口減は深刻。そこで「子育てするなら浦安で」をキャッチフレーズにし、新発田以上とは言えないが、様々な少子化対策を実施している。

例えば、子育て支援パスポート、公立保育園での一時預かり、夫の不妊治療補助などがそれだが、最大の目玉はネウボラをモデルに結婚・妊娠・出産・就園と切れ目のない母子支援体制の構築を進めている。特徴的なのは独自に研修を受けた「子育てケアマネージャー」(現在8人、今後拡充予定)がワンストップで相談に当たり、必要に応じて保健師・医師・看護師・心理士・ソーシャルワーカーと連携しようというものだ。

今までは相談を受けるだけだったが、この10月からはケアマネと保健師が定期的に面談し、それぞれの家庭環境に合った「子育てケアプラン」(カルテ)を作成し、場合によっては保健所や児童相談所とも情報を共有するという。「状況を一度把握すれば、問題解決が必要な家庭は1割程度、継続的に面談し、その都度問題の種類は異なってもこの数字はほぼ一定」(浦安市)。

新発田市でも保健師に限る必要はないわけ、早期の導入を目指す(市長)というものの、最善の制度設計をお願いしたい。

## コラム

たかがそばと言うなかれ



「美味しい笑顔」

▼行ってみて驚いた。五十公野公園で開かれた「第20回日本そば博覧会」。開会10分前の朝9時半、お目当てのホタテかき揚げそばの「北海道上砂川手打ち愛好会」のブースにはもうすでに38人もの行列ができていた。「安兵衛ちり入りそばまつり」には欠かさず出かけていて、ほとんどのブースのそばは食べている。しかし、人気のホタテかき揚げそばは昨年も大行列で諦めて、今年こそはと狙っていたのだ。そこで終了間際の午後3時に出直したら、行列は50人以上に増えているではないか▼今年もダメかため息をついていると、行列の中の知人が「一緒に買いましょうか」と声をかけてくれた。待つこと30分、2年越しの思いがかなったのだ▼入り込みは初日1万8千人、中日4万3千人、最終日4万6千人、合計10万7千人と目標を大幅に超えた。▼今まで新発田で企画するイベントの多くは、企画はよくても情報発信に問題があった。今回は開催時期もよかったが、予算はなかったもののツイッター・フェイスブック等を使った地道で集中的な告知が功を奏したのだ。他のイベントでも「仕込み」と「情報発信」同様にちからを入れて欲しい。例えば中面に掲載した「佐藤哲三展」では日本洋画史上屈指の名作「みぞれ」が里帰りする。広く告知すべきである▼そば博覧会では家族連れも多く、穏やかな秋の日差しの中で「美味しい」笑顔が印象に残った。



芸術の秋 in 新発田  
10月31日(金)まで

# 今年も好評開催中 写真の町シバタ

今年で4回目となる「写真の町シバタ」が、メインストリートを中心に市内各所で開催され、多くの人たちに好評を博している。

メインは「まちの記憶」と題して、新発田の中心商店街各店・各戸の軒先で各店・各戸に残る思い出の写真をポスターにして展示、町全体を写真ギャラリーにしている。

3年前の2011年の第1回は48件の参加だったが、今年は100を優に超える参加で、まさにギャラリーであり、中央町3の「まちの駅 まちなかギャラリー」では集合展も開催されている。

これらの写真を丹念に観ていくと、過去の写真の中に、その時代の「今」を発見することができる。過去と現在と未来。それは生まれては消える「今」の連続なのだ。写真の中で笑っている人は確かにその時代の「今」を生きていた。そこから伝わってくるものは未来への希望である。

「写真の町シバタ」の展示はメインストリートにとまらぬ。昨年「平間至写真展」が大好評だった金升酒造の二號蔵では「リトアニア写真家の見た新潟」展が開かれている。新潟の自然・人・食をテーマにしたリトアニア人写真家アルトゥーラス・ヴァリャウガが切り取った日本の日常。「網を



金升酒造二號蔵 2階で開催中のリトアニア写真家の見た新潟展



①リトアニア写真家の見た新潟展のレセプションでの鏡割り。リトアニア大使、下妻副市長など ②リトアニア写真家の見た新潟展で作品解説するリトアニア人写真家アルトゥーラス・ヴァリャウガ ③挨拶する赤松里美子実行委員長(右)と仕掛け人の吉原悠博・吉原写真館館主

投げる漁師は手品、ぬかるんだ畑の大根の列は老人の歯、味噌作りをする女性たちはダンスのように美しい」と、独特のイマジネーションで極めて造形的な作品群を構築している。これらは私たちが普段見逃している風景の中で外国人の彼だからこそ発見できた「美」にはかならない。

写真展開催初日には、リトアニア大使夫妻を招いてのレセプションと作品解説が行われた。大使は挨拶の中で、時間の記憶をつなぐ写真展「写真の町シバタ」が今度は日本とリトアニア、地域をつなぐ写真展になったことを高く評価し、同時に大戦時にリトアニアの領事館に勤務していた杉原千畝が6千人のユダヤ人らに対して出国ビザを発給したことに触れて感謝の意を評した。

この展覧会に心を動かすかたちで、中央町1のTAICOやでは、吉原悠博による写真展「Japanese Eyes on Lithuania」が開かれている。こちらは日本人が見たリトアニアである。

詳しくはfacebook「写真の町シバタ」で検索を。問い合わせは新発田学術研究センター内 写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会2014、☎0254-2616030まで。

## まちの記憶

10月1日|水|—10月31日|金|  
新発田市商店地区他・市内各所

新発田の各戸に残る記念写真やアルバムからの一枚をポスターにしてまち全体に展示。小さな物語と写真が集まって懐かしくも新鮮な「まちの記憶」が立ち現れる。「まちの駅まちなかギャラリー」では集合展を開催。

▷まちの駅 まちなかギャラリー(中央町3-7-2)  
平日|8:30-19:00 土日祝|10:00-18:00 入場無料



## アルバムのチカラ見聞録

10月1日|水|—10月31日|金|  
まちの駅・まちなかギャラリー(中央町3-7-2)  
平日|8:30-19:00 土日祝|10:00-18:00 入場無料

写真家の浅田政志と編集者の藤本智士が、東日本大震災で被災した写真救済現場の取材記録を出版。この取組みに共感した「写真の町シバタ」スタッフが2日間取材帯同した報告展。

## まちあるきのすすめ展

10月1日|水|—10月31日|金|  
MAISON DE Marucho ギャラリー(大手町1-2-18)

10:00-17:00(水・日曜定休) 入場無料

写真の町シバタの見どころ、まちあるきのヒントを紹介。来場者にも、まちあるきの感想や、お気に入りの場所を地図上に描き込んでもらい『まちの記憶』を積み重ねる。

## RePhotograph —水島優

10月6日|月|—10月31日|金|  
caffenova(中央町2-1-14)  
月—土|11:00-14:30/17:00-19:00(水曜定休)  
日祝|12:00-18:00 入場無料

新発田出身・パリ在住の写真家、水島優の作品展。写真製版による銅版画で写真を抽象化することにより、人と人の間に生まれる記憶や感情の再構築を試みる。



## リトアニア写真家の見た新潟

European Eyes on Japan /Japan Today vol.11

10月11日|土|—10月31日|金|  
金升酒造二號蔵ギャラリー(豊町1-9-30)  
平日|13:00-16:00(月曜定休) 土日祝|10:00-16:00  
入場無料 \*初日レセプション15:00より



アルトゥーラス・ヴァリャウガが、外からの眼で日本を捉えるプロジェクト「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパントウデイ」で、2009年の冬、新潟県を来訪。このときの作品を中心とした特別企画展。  
ゲストキュレーター | 菊田樹子

## Japanese Eyes on Lithuania —吉原悠博

10月11日|土|—10月31日|金|  
TAICOや(中央町1-2-1) 11:00-17:00(日曜定休) 入場無料



昨年度、講演で訪れたリトアニアでの写真を展示。

<p>蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222</p>	<p>茨木建設(株) 新発田市長畑 284-1 TEL.0254-23-6851</p>	<p>介護老人福祉施設 陽だまり苑 新発田市岡田 1746-1 TEL.0254-20-3800</p>	<p>(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761</p>
<p>飯豊電設工業(株) 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134</p>	<p>篠田労務管理事務所 新発市新富町 1-5-9 TEL.0254-22-5649</p>	<p>複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市岡田町1-10-38 TEL.0254-24-1111</p>	<p>(株)ワゴードライ 新発田市佐々木 3445 TEL.0254-27-2261</p>
<p>(株)伊藤組 新発田市島湯 1273-1 TEL.0254-22-4176</p>	<p>新発田建設(株) 新発田市富塚 1942 TEL.0254-27-5711</p>	<p>「座」を「旬」を かして 割烹 志まや 城下町の味処 新発田市御幸町1丁目1の1 ☎(0254)22-2102(代)</p> <p>四季折々の美味 割烹旅館 多奈可や 新発田市稲荷岡 2066 ☎0254-41-2013</p>	
<p>(株)イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056</p>	<p>島津印刷(株) 新発田市富塚 1419 TEL.0254-27-2101</p>	<p>(株)岩村組 新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550</p>	<p>(株)新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011</p>
<p>SODデザイン 高橋智志 新発市新富町 1-1-3 ストライビル2階 TEL.0254-24-5121</p>	<p>大進電業(株) 新発田市佐々木 1895-9 TEL.0254-21-5000</p>	<p>小野寺税務会計事務所 新発田市大栄町 2-7-7 TEL.0254-22-3497</p>	<p>(株)大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191</p>
<p>(株)下越道路 新発市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296</p>	<p>新潟ファームサービス(株) 新発田市五十公野 4104-1 TEL.0254-20-3828</p>	<p>(株)小林税務会計事務所 新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705</p>	<p>山田建設(株) 新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700</p>
<p>(有)クサカベモーターズ 新発田市五十公野 4836 TEL.0254-22-6311</p>	<p>フジマ舗道(株) 新発田市島湯 4197-3 TEL.0254-26-5030</p>	<p>小柳産業(株) 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010</p>	<p>(有)アミックス 新発田市五十公野 4837-6 TEL.0254-23-6817</p>
<p>(株)こじまホールディングス 新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381</p>	<p>扶桑畜産(有) 新発田市米倉字鳥越 4666-1 TEL.0254-28-5136</p>	<p>はな やす 葬儀 花安 新発田斎場 24時間受付 ■斎場 / 新潟県新発田市荒町 1521 ■仏事センター / 新潟県新発田市荒町 1490 TEL (0254) 22-1320 FAX (0254) 24-5156</p>	



芸術の秋 in 新発田  
11月1日(土)~月末

# 名作『みぞれ』。ふるさとに帰る

先の「竹久夢二×藤谷虹児」詩と挿画の「世界」展で開館以来の大入りとなった藤谷虹児記念館。11月1日(土)からは待望の「佐藤哲三展」晩年の風景展が開催される。

不世出の天才画家・佐藤哲三は明治43年長岡で生まれた。父は新発田藩士の末裔・佐藤英雄。哲三は翌明治44年帰郷し、その後新発田と妻の実家・加治村で暮らした。昭和5年に村上駅で赤帽をモデルにした『赤帽平山氏』が国画奨学賞を受賞。ゴッホの影響も見て取れる強いタッチ、黒と赤との対比が鮮烈な名作で、哲三の名前は全国に鳴り響いた。しかし、哲三はふるさとを離れることなく、農村や農民の生活を描き続けた。

戦争中は制作を中止したが、昭和24年制作を再開。その後腎臓結核の診断を受けて入退院を繰り返しながら、『原野』『残雪』さらに不朽の名作『みぞれ』を完成させた。続いて『みぞれ』と同モチーフの『帰路』の制作にかかったが、翌年6月、哲三は白血病で死去し、『帰路』は未完となった。

暗い色調ながら温かい  
佐藤哲三の『みぞれ』

佐藤哲三は若い頃から天才画家の呼び声が高かったが、新発田を離れず、中央画壇からは距離を置いた。そのためか彼の名は次第に忘れられてゆく。しかし、哲三の死後、『気まぐれ美術館』で名高い美術エッセイストの洲之内徹が哲三の作品に出会って、哲三を再び世に送り出した。

洲之内徹は『みぞれ』について「裏は北方の風土のひとつの象徴であり、曇降の薄暮に感じる想いは、北国のひとびとだけが知る切実な感情であらうと絶賛している。黒褐色とみぞれの白の田にタモの木。垂



『みぞれ』  
油彩 60.5cm x 133.0cm  
個人蔵  
神奈川県立近代美術館寄託

れこめた雲からわずかに射した朱の夕日を背に、人々が列になって歩いている。多くの人が雪国の暗さや冷たさや言いが、おそろしく帰路に着く人々の心はそれほど暗くはない。蒲原平野に生ま育った者にとって初冬のごく日常の風景であり、その先には帰るべき暖かな家、家族があるからである。

里帰りした『みぞれ』を見逃す手はない。  
「佐藤哲三展」晩年の風景展  
藤谷虹児記念館  
11月1日(土)~11月30日(日)  
午前9時~午後5時 ※期間中無休  
大人5000円 高校生2000円  
小中学生1000円  
0254(26)1013

芸術の秋 in 赤穂  
11月8日・9日・10日

# 富澤先生と行く 忠臣蔵・赤穂の旅

11月8日(土)・9日(日)・10日(月)の3日間、「播磨の国播州 富澤先生と行く 姫路城と忠臣蔵のまち赤穂の旅」が開催される。

義士として知られる赤穂四十七士の一人、新発田生まれの堀部(旧姓中山)安兵衛。今回は大好評だった第一弾「富澤先生と行く 凱旋の道大江戸」に続く第二弾だ。安兵衛研究者として次々と新発見を発表している新潟大学名誉教授富澤信明先生が安兵衛の主君・浅野内匠頭の故郷赤穂の旧跡を巡りつつ、富澤先生名物の「面白トーク」で歌舞伎や講談とは違った忠臣蔵・大石内蔵助・堀部安兵衛の実像に迫る特別企画だ。

赤穂市の赤穂城や花岳寺、大石神社を歩くほか、紅葉が美しい世界遺産・姫路城や黒田官兵衛歴史館にも足を伸ばす。

最近の研究では、吉良邸討ち入りを主導したのは堀部安兵衛であり、大石ら身分の高い高級官僚は浅野家再興ののち同家に再び士官(就職)することを望んでいたと言われる。

大石内蔵助らが態度を變更したのは元禄15年7月18日、幕府によって浅野家再興が叶わないことが決定されたことを受けてからで、同年7月28日に京都円山で開かれた会議で討ち入りが決定された。その後大石は同土に出した手紙に「かねてから決めていた討ち入り」との旨を記述するなど、討ち入りの大石主導を演出した。

一方、富澤先生は新発田藩主の従兄弟が幕府の大目付という要職に就いていたため、陰ながら安兵衛らが討ち入りできるように取り計らったと、安兵衛が残した手紙から推測している。この辺りの虚々実々、



赤穂城本丸門。忠臣蔵での城明け渡しのシーンで有名だ

生々しい駆け引きの話も赤穂の史跡巡りのなかで聞けるはずだ。

● 姫路城と忠臣蔵のまち赤穂の旅  
日時 11月8日(土)・9日(日)・10日(月)  
料金 一人4万9800円(2泊3日)  
募集 30人(最小催行人員20人)  
主催 武庫会  
申込 新発田市観光協会(増子・渡辺)  
0254(26)6789

● 行程 ● 8日(土) ※昼夜食事自費  
朝6時カルチャーセンター発(バス)  
● 高速 世界遺産・姫路城(黒田官兵衛歴史館も見学) ↓ 姫路市内ホテル泊

● 9日(日) ※昼食事自費  
姫路市内ホテル発 ↓ 赤穂シテイマ  
ラン応援(新発田市民ランナー出場) ↓ 昼食 ↓ 赤穂市内観光(赤穂城跡・花岳寺・大石神社・塩の国・田  
淵記念館) ↓ 赤穂温泉(歓迎会) 泊  
10日(月) ※昼食事自費  
赤穂温泉発(バス) ↓ 高速 ↓ カル  
チャーセンター(午後7時頃)  
※行程変更の場合あり。

落語たっぷり!! ふぢしん寄席スペシャル

## 文左衛門・一之輔 二人会

11月20日(木) 開演 18:30

会場 新発田市民文化会館  
新発田市中心4-11-7

全席自由 ¥2,500

チケット問い合わせ  
● 喫茶「紫音」0254-22-5726  
● 居酒屋ふぢしん 22-9868 ● (株)安田組 24-1761

主催/新発田市協力雇用主会 協賛/新潟保護観察所、新発田阿賀北地区保護司会

## 晩秋の味覚フェスタ

11/1(土) ~ 11/3(月・祝)

「新高梨」大試食会  
新米の特売

さつまいもパーティー  
\* 焼芋開始 \* 品種様々  
\* 詰め放題あり

農家の直売所  
とんとん市場

● 新発田店 9:00~18:00  
新発田市荒町1480  
☎0254-20-2229

● 松崎店 9:00~19:00  
新潟市東区新松崎1-6-14  
☎025-274-2229



# 雇用・少子化対策・教育。さらさらに移住者増対策が必要

増田寛也氏の講演会「2040年、地域消滅！極点社会が到来する」が、10月7日（火）午後6時半から、新発田市民文化会館に約800人の聴衆を集めて開催された。

当日、増田氏が座長を務める「まち・ひと・しごと創生会議」が急遽招集されたため、東京と新発田をインターネット回線で行った異例の講演会となった。

講演要旨を掲載する。

まず、現状について。何も手を打たないで、1・4という現在の出生率が改善せず、20〜39歳の若年女性の地方から都市圏への流失が続くと、2040年には地方自治体全国1千799のうち約半数の896が消滅する可能性がある。

消滅の可能性があるのは若年女性が50%以上減る自治体で、新発田の減少率は50.5%と予想され、消滅可能性都市に含まれる。老人が多く若者が少ないという人口構成のアンバランスは国のレベルであれば年金などの社会保障制度が維持できなくなる。地方レベルでは働き手がいなくなり収入減。さらには老人介護が難しくなる。もっとも、東京でも待機介護老人は4万3千人、施設に入ることにも包括ケアを受けることもできず、東京で豊かな老後を送るのは至難の業である。

11の月に北海道・礼文島では大雨による土砂災害で2人亡くなった。避難勧告を出せなかった。なぜかという避難所に配置する町職員が足りなかった。人口減少で職員も少なくなるのを待たないという事情があった。極端な例だが、災害時には手が回らない。

また、例えば北海道では若年男性が出稼ぎに行ってしまう若年女性の多くは結婚相手がいない。若手はこの逆で若年女性が出ていくために若年男性の数が多くて結婚できないという、若年男女間の人口アンバランスもある。

狭い東京に会社も住宅も集中するという国土利用のアンバランスは、地方の荒廃と都会での出産・子育てを難しくした。現に都会に住む既婚者の多くは3人以上の子供を持ちたいという希望を持っているが、低収入・狭小な住宅事情・通勤時間平均90分・男性の長時間労働・核家族化などによって実現することができない。

このような現状を共有し、早急にしかも長期的・継続的対策が必要だ。

対策としては、

- ① 子どもを産みたい人が何人子どもが欲しいかという「希望出生率実現」を目標として、子どもを産みたいけど産めない理由となっている障害を除去する。
- ② 雇用と収入の安定を図り、子育て支援に努めることも、男性の育児参加を推進する。
- ③ 地域資源を生かした産業を創出し、生まれ育ったふるさとで仕事を持って家庭が持てるようにする。
- ④ 必要な費用は高齢者対策を見直して捻出する。

これらを地域の事情に合わせて行う。例えば東京では自然減を防ぐ少子化対策、北海道や東北では社会減（人口流失）を防ぐ、産業振興がより大切になる。

2025年に日本の希望出生率1・8を表現し、2035年に2・1が実現するこ

日本の人口は約1億人で安定する。

\*

新発田市の場合、どうすればいいか。出生率はほぼ全国平均、市外への転出もある。2013年は年間180人、うち男性は76人、女性は104人が転出。やはり、女性の方が多。従って、少子化対策のほうが必要だが社会減対策も必要だ。

新発田市では子育て支援ですでに先進的な取り組みを始めていて敬意を表するが、さらに加速すべきだ。処方箋を順次挙げる。

- ① 仕事を作ること。工場のみならず本社機能・研究機能などにアプローチ、企業進出しやすいように税制上のメリットを与えるなどして、選ばれるまちにする。
- ② 移住者を増やすこと。長野や山梨で成功がある。長野でできるなら当然新発田でもできる。
- ③ 希望出生率を実現するために、若い女性の声を徹底的に聞いて、ニーズをこらえて可能な限り実現する。
- ④ 社会保障・防災機能を向上させ、安心・安全なまちにする。
- ⑤ 地域連携する。新発田でできないことは隣のまちで、隣のまちでできないことは新発田でやる。近隣全体で東京に対抗

する。東京に出ていけば年に1回か2回しか帰ってこない。近くにいれば毎週帰って年寄りの面倒も見られる。

⑥ 教育も極めて大事だ。教育で子どもの可能性を広げることは当然だが、若い人にまちの歴史を伝えて、新発田に対する郷土愛を育むこと。

これらの対策の効果が出るまでには長い時間がかかる。必要な数字・データを揃えて的確な対策を立てて、国の支援を仰ぎながら、他自治体と連携すべきである。

◆

以上が講演の要旨である。増田氏は今回、新発田の現状に鑑みて他の論文ではほとんど触れていない「移住者対策」に言及した。あくまでも企業誘致が主であり、補完的な対策だとしながら、耕作放棄地の多さや農業の担い手不足の解消という面から、新発田市では有効だと挙げていた。

内閣府の昨年の調査では、都会から地方への移住希望者は確実に増えている。都市の住民で田舎への定住を希望する人は全体の約32%、9年前の調査から11%増えている。年齢別では20代が約39%で最も多かった。移住希望者へのアプローチは極めて盛んであり、移住者の奪い合いの様相だ。

大分県竹田市では「農村回帰支援専門員」を東京に配置して、年間160人の移住者を獲得している。土地取得・就農・農業技術支援・資金相談・住宅取得・子育てまで1人の係が窓口になってワンストップで支援するのが特徴だ。検討に値する課題である。

**第40回 豊浦地区 文化・芸能祭**

11月8日(土)・9日(日)

◎午前9時～午後5時まで  
<9日は午後4時まで>作品展示

**8日(土)**  
 藤細工体験(先着30名)  
 焼き芋無料配布(先着)  
 とようらマジッククラブ  
 世間亭東志郎さんの  
 落語と子ども向け小話

**9日(日)**  
 芸能発表(お楽しみ抽選会付)  
 まきやま茶会(先着150名)  
 軽食・作品・未使用品バザー  
 otocoichi(フリーマーケット)

ご協力 両日ともタオル回収箱(洗濯済使用品可)を設置します。  
 ください ※タオルおよびバザーの収益金は、豊浦地区の社会福祉施設に寄付します。

主催:第40回豊浦地区文化・芸能祭実行委員会  
 お問い合わせ:豊浦地区公民館  
 新発田市乙次26-2 Tel.0254-22-2081

## 二王子そば やなぎ

### 秋色の二王子の麓 今年も地元の新蕎麦を食す

集落で採れたそばの実を干して皮をむき、石臼で挽く。そのそば粉をていねいに手打ちして出来る正真正銘の地元の蕎麦は、赤土で育つせいか格別の風味を放つ。

ここに店を構えて40年、温かい家族が守ってきた手打ちそばは、ほんのりと優しい味わいで、そして若き3代目の新メニュー「揚げ出し蕎麦豆腐」や代々続く「和風しゅうまい」も訪れる人を虜にしている。

新蕎麦の時期。うっすらと鶯色を帯びた打ちたての蕎麦を食せば、この上なく幸せな秋のひとつが過ぎるはずだ。

#### 二王子そば やなぎ

☎0254-25-2469  
 住/新発田市本間新田643-3  
 営/11:00~15:00  
 休/不定休  
 P/20台 取/50席

店を守る家族は今日も仲よし。店主の尚史さん(中央)、調理師専門学校で知り合った衛さんと奥様の瞳さん。4代目?の侑季君とお茶目な里緒ちゃん。尚史さんの奥さま美穂さんは外出中



1. 注文があれば十割そばも打つという 2. しっかりと落ち着いた店内。おまかせ蕎麦コース(2名以上で要予約)は1人2,500円から 3. 和食処で修業した3代目考案の「揚げ出し蕎麦豆腐」(500円)はもちりとしてなめらかな舌触り

採れたてのキノコアケビ



#### 読者モニタープレゼント

#### 二王子そば やなぎ お食事券(1,000円分)

本紙感想・ご意見、住所・氏名・電話番号を明記の上、表紙左上の住所宛までハガキにてご応募下さい。抽選で5名様に引換え券を差し上げます。

※平成26年11月25日(火)必着



SOP  
イチオシの味

二王子そば(1人前850円)は濃い目のつけ汁でいただく。近くで採れる山の幸の天ぷら盛合せ(700円)はオリジナルの薄い塩味の天つゆでどうぞ



鶏肉やカニなどが入った和風しゅうまい(3個・650円)はあっさりとした味わい。持ち帰りも可

